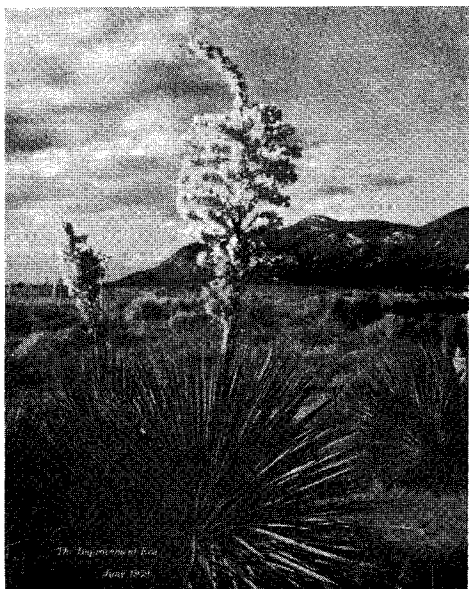


The Seito no Michi

Volume 7, July 1963, Number 7

In this Issue

A Prophet's Voice: Reverence	President David O. McKay	418
President's Message	President Dwayne N. Andersen	421
Your Question: Why was not Paul ordained by Peter to the Apostleship?	President Joseph Fielding Smith	425
Essentials in Church History (37)	President Joseph Fielding Smith	427
My convert	Dr. James R. Surver	434
Northern guardian faithful Katanuma Family	Brothey Masao Watabe	443
Church Articles		450
Genealogy Guide (for August)		
Sunday School Guide for J.S.S. (for August)		
Sunday School Guide (for August)		
MIA Leader (for August)		
Aaronic Priesthood: Branch Teaching Lesson (for August).....		450
Mission Mother's Message		465
Relief Society Lessons		464
Literature—Visiting Teacher Message		
Mission Headquarters News		447
Instructions from Mission clerk.....		424
Branch News	Elder Wade Fillmore	439
GOSPEL IN ENGLISH	Sister Smith	474



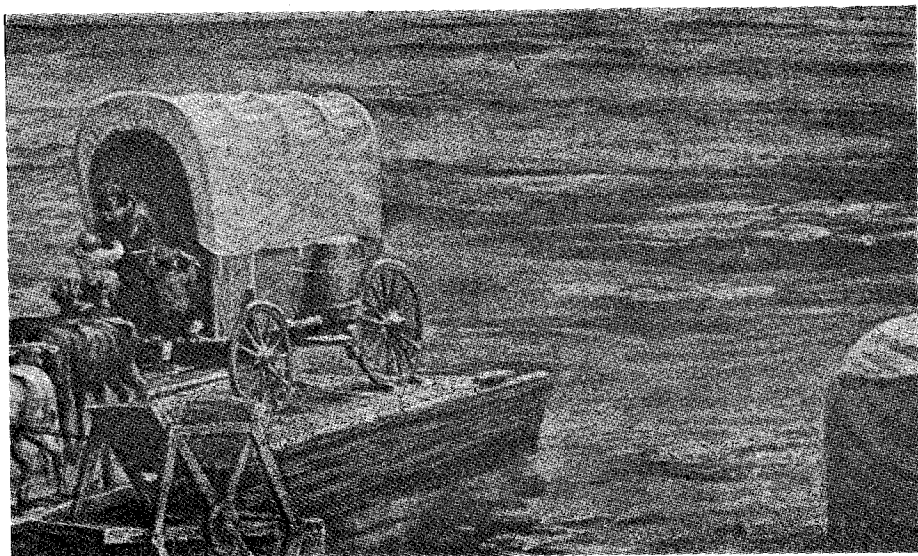
聖徒の道

第七卷
第七号

一九六三年七月号

「おおこの四十エーカーの土地、ここに、神殿を建てるのだ。そして東西南北に正方形の街を造るのだ」。

一八四七年七月二十八日、未開のソルト・レーク盆地にモルモンの聖徒が始めて足を踏み入れて四日目にブリガムヤングはこの地に立って叫んだ。今や世紀の殿堂が青空高く雲をつき、美しいシオンの都が世界の人の注目の内に展開されているのである。



目次 聖徒の道 一九六三年七月号

予言者のことは

ふやまいのこころ

大管長 デビド・O・マッケイ……418

伝道部長メッセージ

ダワエン・N・アンダーセン……421

質 疑 応 答

パウロはなぜペテロによって使徒に按手聖任されなかつたか

ジョセフ・フィールディング・スミス長老……425

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹

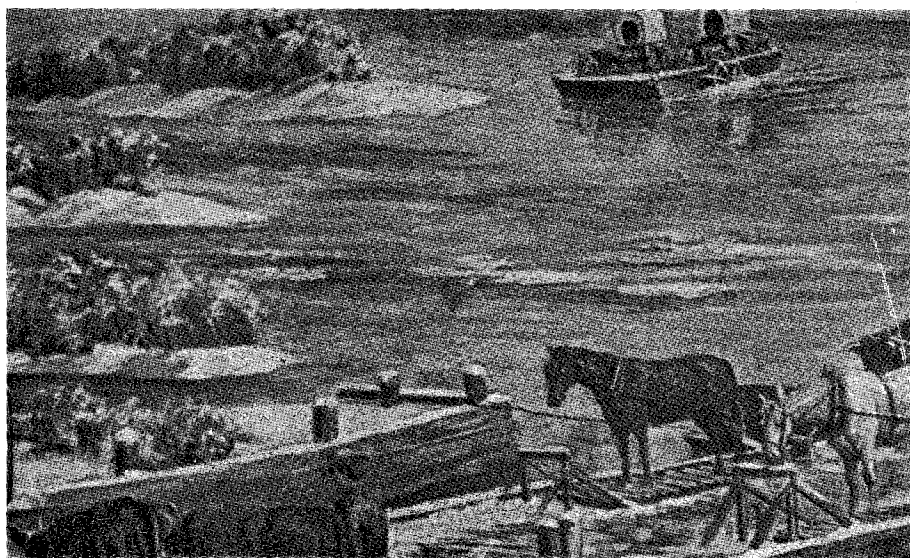
ジョセフ・フィールディング・スミス長老……427

私 の 改 宗

ジェームス・R・サーヴァー博士……434

北の守り。信仰の渦沼一家

渡部 正雄……443



アロン神権ブランチ・ティーチング・レッスン (七月用) 450
 (八月用)

メルケゼデク神権第一、第二長老定員会 451

系図の道しるべ(八月用) 453

子供の日曜学校ガイド(八月用) 454

日曜学校ガイド(八月用) 456

M I A リーダー(八月用) 461

伝道部扶助協会長メッセージ ペギー・ヒュイシ・アンダーセン 465

ジョセフ・スミスの生涯(9) (扶助協会文学用レッスン) 467

扶助協会レッスン 472

伝道部書記指示 伝道部書記 ファイルモア長老 424

伝道本部だより 447

支部だより 439

英会話テキスト 474



第二長老定員会会員

5月5日西中央地方部大会の時

柳井支部会員

2月広島で開かれた地区大会の時





東京南支部支部大会 5月
支部だより記事参照。



予言者のことば

うやまいのころ

大管長 デビッド・O・マッケイ

うやまいのころは、人間の弱さでなく人間の強さを示す美しい徳の一つである。人間の性質のうちで愛が最高の美徳であると言ひ、また互いの同情もこれと同じ美徳であると言うが、私はうやまいのころを愛の次に置くつもりはない。うやまいのころとは愛が加わっている深い尊敬の念である。言葉をかえて言えば「心にうったえるこもごも感情から成る複雑な情緒」ということができる。

うやまいのころの中には尊敬、服従、敬意、尊重などの念が含まれている。それであるから、これらの念がいくぶんかなくては何の好意も、ていねいも、人の気もちを思いやることも人の権利を尊ぶこともないであろう。うやまいのころは宗教のもとになる美しい徳である。

神と神聖な事物をうやまい尊ぶということはすぐれた人のもつおもな特性である。つまらぬ人でも成功することがあるが、



うやまいのところがなかったらこれらの人はけっしてすぐれた人になることはできない。すぐれた人にはうやまいのころがある。すぐれた人は神をうやまうころがあり、神とともにあるすべてのことをうやまうころがある。従っていま世界が直面している大問題は、人々が神と御子とイエス・キリストの福音に対してとっている態度である。

ついさきごろまで、われわれは「鉄のカーテン」のすぐそばに立っていた。人はあのベルリンを覆っている暗いかげを感じる事ができた。共産主義者は古い中華民国のキリスト教とキリストを信ずる信仰とおしつぶしてしまった。神をうやまうころと神を信ずる信仰とは、今共産主義者が征服している国に属しているひじょうに多くの国民のころから消えつつある。これをもつても、あのイデオロギーがあやまっているという充分な証拠になるのである。

私はかつてインドにある「タジ・マハール」をおとずれたころがある。これはインド、モガル帝国の皇帝シャール・ジュハールが亡き妃マンタズ・マハールを記念するために建てた廟であって、多くの人々は世界第一の美しい建物「建築の中の詩」であると言っている。「タジ・マハール」は礼拝堂ではなくて、実は墳墓である。私は世界各地の伝道部を訪問していた際、ヒュー・J・カン兄弟と一しよにここをたずねた。私たちおなじくそこをたずねる外国人や旅行者がそこに大勢いたけれども、みな小声で話し合っていた。まったくまわりの状態がこれらの人にうやまいの精神をおこさせていた。旅行者たちがけいけんの念を以って行動していたのは、この建物が不信仰やさわ

がしさを目的としていない或る高い目的のために建てられたものであることを感じていたからであった。

私たちの教会には多くの建物があるが、みな「父なる神」とまじわるためにたてられている。私は騒々しいという感じを心に抱いて教会堂へ入って行く人などを考えてみることもできない。

私たちは主を礼拝するために教会堂へ入る。私たちは「主のみたま」を分けていただきたいと思っている。そして「主のみたま」を分けていただくとき、私たちの霊の力が強くなるのである。主が私たちに教えて下さった祈りの最初の文言は「天にましますわれらの父よ、御名があがめられますように」（マタイによる福音書六〇九）である。「あがめる」ということば一つにうやまいのころがともなっており、うやまいというのはこのころのもつ最も神聖な性質の一つである。もしもあなたがこの世の王の一人に会おうとしているなら、あなたは王に会うときどんな態度をとらねばならぬか、どんな服装をせねばならぬかなどについて、いくつかの疑問をもつことであろう。おそらくあなたは人にまできいたりお金までつかったりして正しい服装をととのえることであろう。このような場合、あなたはひじょうにうやまっている君主の前に進み出ようとしているのであるが、その人はこの世の支配者であるにすぎない。

しかし、あなたが教会の建物の中へ入るときは、あなたは「父なる神」の前に進み出ているのである。それであるから、あなたはそう考えるだけで、あなたが「父なる神」の前に正しくかつさわしく席につくことができるよう、心の思いもこ

ろざしも、また服装さえもとのえなくてはならないという氣を充分におこすはずである。

礼拝の集りでどたばたとさわぐのはよくないということは、ことばでもつても行いでもつても子供たちによく教えこんでおかなくてはいけない。説教中にそばの人と話をしたりするのは、たとえささやき声であっても失礼なことである、また礼拝の集りが終わらないうちに席を立て出てゆくのは、最も礼を失った行いであるということは、子供の時代によく心に刻みつけておき、青年の時代になったらまた心に強く感じさせるようにするべきである。

教室のなかでは、子供たちは教えを受け、自由に討論し、自由話し、自由にクラス活動に参加するべきである。しかし、どの生徒も押しつたり、おろかなつまらないことを言ったりしてほかの生徒の注意をそらせる権利をもつてはいけない。教室の中で正しく秩序を守るということは、克己の原則を若い人々の心と生活にしみこませるために肝要なことである。若い人々は話をしたいし、ささやきたいが、それは誰かの静かな心を乱すからしてはならないのである。騒ぎをする子供は、騒ぐことによつて害を受ける。このような子供は、社会へでたときにそこでは罰をうけないではできない事があるのを学ぶべきである。彼は仲間の権利を侵害することはできない。

集会の場所が質素な教会堂であろうと、それが「建築の中の詩」と言われるみごとな建物であろうと、われらの礼拝すべき御方に対する態度や近づき方には何らのかわりがない。われらの礼拝すべき御方がそこにましますことを知るならば、われら

の行いを行為の鑑とするに充分であるにちがいない。

家庭生活の中にある三つの影響力は子供たちにはうやまいのころを目覚めさせ、またうやまいの態度も向上させるための力になる。これらは親切な指導と、両親がお互いに対してまた子供たちに対して示す礼儀と、子供たちも一しょに加わる祈りの三つである。子供たちにこれらの教訓をまだ年のゆかないうちにおぼえさせなさい。

神のみ名をうやまい尊ぶことは、どこの家庭に於いてもまず第一に守らなければならない大切な教えである。わが教会員の家庭では、神をけがすことばをけつて出してはならない。神をけがすことばを出すのはよくないことである。神のみ名をむやみに出すことは、神をうやまわぬいしわざである。どんなに相手が自分を怒らせたからといって、神のみ名をけがすことばを出してよいとはいえない。いつでもうやまいのころを抱き、いつでもけいけんないをししようではないか。

もしも人のころにもう少し多くうやまいのころがあるならば、人のころに罪や悲しみを思ふ余地がもっと少なくなり、楽しさやよろこびを感じる余地がもっと多くなることである。

うやまいのころという、多くの光りかがやく美德の中の珠玉であるこの美德を、もっと心の中で大切にし、もっとしばしば行いにあらわし、もっと目につくようにすることは、あらゆる役員、あらゆる両親およびあらゆる教会員がもっとも一致して努力をかたむけ、もっとも祈りをして努力をかたむける価値のある計画である。

伝道部長メッセージ



伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

予言者イザヤは、末日に起こる或大いなることを主に見ることを主に許されたのでありました。彼はあらゆる時代を通じての最も力ある書物の出で来たることを見る特権を与えられたのであります。

それゆえ、このすべての幻は、あなたがたには封じた書物の言葉のようになり、人々はこれを読むことのできる者にわたして、「これを読んでください」と言えば、「これは封じてあるから読むことができない」と彼は云う。またその書物を読むことのできない者にわたして、「これを読んでください」と言えば、「読むことはできない」と彼は云う。

主は言われた。

この民は口をもってわたしに近づき、
くちびるをもってわたしを敬うけれども

その心はわたしから遠く離れ、
彼らのわたしをかこみ恐れるのは、
そらで覚えた人の戒めによるのである。

それゆえ、見よ、わたしはこの民に
再び驚くべきわざを行なう。

それは不思議な驚くべきわざである。

彼らのうちの賢い人の知恵は滅び
さとい人の知識は隠される

イザヤ書 二十九〇十一―十四

奇しきみわざの一つはモルモン経のもたらされることであります。この書物の能力は偉大であります。それは現代に神の生きてましますことを科学的に証明する力をそなえております。私は貴方が更に検討する為又貴方の証を強化してそれを求道者又は貴方の友だちに分かち与えてもらう為に、この事に就いて述べて見たいと思えます。

モルモン経の偉大さは、聖書と比較した時にのみ完全に理解することが出来るのであります。モルモン経がもたらされる迄、神に就いての人の知識は聖書からのみ得られたのであります。私たちは聖書の中に見られる記事を大きく歴史的な部分と啓示された神の言葉の二組に分類することが出来ます。

歴史的な部分

啓示された神の言葉

- 1 シナイ山
- 2 エリコ
- 3 エルサレム
- 4 ガラリヤ湖

- 1 神の性質
- 2 人間の神に対する関係

- 3 十誡
- 4 福音（八福の教え）

- 5 ヨルダン河
- 6 十二支族
- 5 キリストの使命と目的

聖書の歴史的な部分は既に調査され、これらの場所が実在することとは証明されて来ました。このように聖書は歴史的に真実なものであります。然しながら無神論者は単に歴史的に真実であることが、啓示された神の言葉として含まれている教義をも真実であると証明することに必要ないと申します。聖書の弱点は人によって書かれ、人によって保存され、人によって譌訳されたことにあります。啓示された神の言葉に組み分けされた部分は、信仰によってのみ、受け入れられねばならないのであります。

モルモン経の立場はこれと相違しております。モルモン経も同様に二組に分類されます。

歴史的な部分

- 1 エルサレムから来た
 - 2 三つの主な移民
 - 3 ヘブライ語及びエジプト語の知識
 - 4 人々は金属を用いた
 - 5 馬も用いた
 - 6 セメントも用いた
 - 7 ゼラヘムラ市
 - 8 白色及び暗黒の皮膚の民
 - 9 キリスト・アダム及びノアに就いての知識
 - 10 高度な文明
- #### 啓示された神の言葉
- 1 神の性質

2 人の神に対する関係

3 十誠

4 福音(八福の教え)

5 キリストの使命と目的

モルモン経の立場の優秀な理由は、それが人によって書かれたけれども神によって紀元四百二十一年から一千八百二十一年迄、保存されて来たこと及び神の能力によって譌訳されたことにあります。

神からの天の使者モロナイがモルモン経の金版をジョセフ・スミスに手渡したのであります。ジョセフ・スミスは、神の能力によって約六十日間譌訳したのであります。教会の譌訳者佐藤竜猪兄弟は、モルモン経を文語から口語に改訂するだけで約三年間、かかったと私に告げました。しかも彼は知り且つ理解している言葉で働らいたのでした。ジョセフ・スミスはモルモン経の中に書かれた言葉を知らなかつたのであります。ですからジョセフ・スミスがモルモン経を訳した速度と言うものは、それが神の能力によってなされたこと云うことよってのみ答えられるのであります。

前述のモルモン経のすべての歴史的部分は、今日、科学者によって証明されました。真に求めている人は、モルモン経が歴史的に真実なものであることを自ら証明することが出来ます。最も決定的な証拠はリーハイの夢(ニーフアイ第一書 八〇十一―三十五)の詳細を示す彫刻画のある中部アメリカで発見された大きな石であります。百三十三年の間、誰もモルモン経を反証することが出来なかつたのであります。中部及び南アメリカに遺跡が発見されるに及んで、モルモン経の歴史的部分の真実であることが、次から次へと証明されて行つたのであります。

若しも科学者がモルモン経が歴史的に真実であると証明するならばモルモン経の中に含まれている啓示された神の言葉も又真実なものであります。何となればその書物は神によって保存され、取り出だされて神の能力によって譌訳されたからであります。このようにしてモルモン経は、科学的に神の實在を証明してあるのであります。それは今日、世の中で最も強力な書物であります。若しもモルモン経が真実なものであれば聖書も又真実であります。何となればそれらは同じ啓示された、神の言葉を含んでいるからであります。

科学的な証拠によつてモルモン経の真実なことを証明すると同時に、私たちは又心の内に確信と云うものを得なければなりません。これはモロナイ書第十章四節にすすめてあるところに従つて祈りを以つて学ぶことであります。またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によつて永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によつてこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

私たちはモルモン経の能力を自覚して、それを神が生き給い、その王国とこの末日に私たちの救主の下に帰る迄、この地上に続くであろう教会を打ち建てる為に、現代の予言者に語り給うことを証明する為に用いようではありませんか。

伝道本部書記指示

今回は5つのことを指示します。

1. Certificate of Membership のうしろの Remarks の欄に本籍地の住所を漢字とローマ字で必ず記入して下さい。

2. 献金用レシート

本部から送ったレシートの中で今使っていないレシート（すなわち現在使っているレシートではなくて、昨年中に受取って、まだ使っていないレシート）がありましたらこれを本部に送り返して下さい。青と白のレシートを VOID にする時必ずその白いレシートを本部に返して下さい。なおレシートを本部に送る時には、別々にやぶいて順番に上から下までそろえて下さい。

3. 維持費

FD 64 報告書の本当の目的は支部の使う金とその支部の収入を報告することです。ですから宣教師のお金は（献金以外）この報告書に入っているはなりません。それから支部以外の目的の目的に使うお金は FD 64 に入らないことです。要するに宣教師と支部を全然別々にしていただきたいです。

4. 支部の銀行かんじょうの名前は（末日聖徒イエス・キリスト教会）_____支部。英語ですと The Church of Jesus Christ of Latter Day Saints _____ Branch にしてください。支部長の名前を使わないことです。

5. 別郵便で送りましたお知らせ、すなわち富士銀行に変えること、聖徒の道の委員長を決めること、MIA の予算を出してもらうこと、この三つもよろしくおねがいします。

伝道本部書記 ウェイド・W・フィルモア長老

宗教法人法による指示

6月号聖徒の道「本部書記指示」の中にある次の点は宗教法人法によって次のように変更して下さい。

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 10. Budget Estimate | 支部永久保存 |
| 11. Audet Report of Examination | 〃 |
| 17. Branch Inventory | 〃 |
| 18. Bank statement | 〃 |

パウロはなぜペテロによって使徒に

按手聖任されなかったか

質疑応答

解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

質問。

パウロはなぜ使徒であったペテロ、ヤコブ、ヨハネから使徒に按手聖任されませんでしたか。パウロがガラテヤ人へ送った手紙の第一章をみると次のようにしるしてあります。「人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ」(101)。

また同章15節と16節でパウロは、神がわたしをお召しになったとき、わたしは血肉にも相談せず、また先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行った、とその点をはっきりさせています。それはパウロが実際にエルサレムへ行った三年前であって、エルサレムでパウロが会った使徒はペテロと主の兄弟であったヤコブとだけありました。エルサレムを去ってパウロはシリアとキリキヤへまいりましたが、ユダヤの教会員はまだパウロの顔を見たこともなく、以前に破壊していた信仰を今度は人に宣べ伝えているということを耳にただけでした。

それから14年たって、パウロはテトスと当時使徒であったバルナバと共にエルサレムへ行き、会議で自分の考えを人々に示しました。しかし人々が、ペテロに割礼の福音がゆだねられたのを認めたとき、ヤコブとケバとヨハネとはパウロとバルナバに交りの手をさしのべました。そしてパウロとバルナバが異邦人に行くことに同意しました。いま私たちは「福音の新しい神権の時代」(異邦人に福音を説く権能と鍵)がパウロにゆだねられたかしらと思っています。聖書にはこの考えを支持すると思われる数々の聖句があります。

解答。

あいにく、われわれに伝えられているいろいろな記録はきわめて断片的である。われわれは首尾一貫した話を一つももっていない。パウロはそのあやまった道から回心をさせた偉大な示現を受けた時から、主の使命を実際にその目で見た証人になった。しかしながら、この示現を見たことだけでパウロは使徒となる資格を得たわけではない。パウロが為さねばならぬことがたくさんあった。第一に彼は罪をゆるされるためにバプテスマを受け、会員として確認されなければならなかった。それから彼はアラビヤへひきこもったが、これは疑いもなく勉強と準備と祈りの時期であったにちがいない。その後、彼はけんそんと熱心とをもって導きと教えを施す働きを始めるためにかえつてきて、多くの兄弟たちの努力をはるかにこえる努力をして働いた。彼は、その誠実さと神の御子の使命のために完全に回心をして働くことを兄弟たちに確信させる時を兄弟たちと一緒にすぎたことがあるにちがいない。われわれは多くの大切なこまかい点についてはまだ知識に欠けていて、これは昔から今まで伝わっておらず、パウロがいつどこで按手聖任されたか全くわかっていない。これはわれわれのもっている知識が断片的なものであることを思えば、なにも不思議ではない。パウロだけでなく、バルナバや、主の兄弟であるヤコブが使徒に聖任された時について何の記録もこっていない。ルカが忠実にしるしただ記録がなかったなら、パウロのいろいろな活動についてわれわれはわずしか知る機会がなかったであろう。これは始めから十二使徒会の会員であったペテロ、ヨハネその他の人々についてもおなじである。パウロはその兄弟たちと親しくまじわる時があり、神の靈感に従いこれらの兄弟たちの議決によってパウロに使徒職がさづけられたと推定しても正しいであろう。もしわれわれが記録をもっていたなら、バルナバ主の兄弟であったヤコブ、そのほかの人たちも、これらの兄弟たちによって按手聖任されたことは明らかに真実であろう。パウロが使徒たちの議決によらないで按手聖任を受けたということを信ずる正しい理由はない。ガラテヤ人への手紙、コリント人への手紙、エペ

ソ人への手紙、コロサイ人への手紙、テモテへの手紙のほしきで、人によってでなくて神によって召されたといっているパウロのことばに何の不思議もない。いっどうしてパウロが按手聖任されたか明らかにされていないが、これはバルナバについてもその通りである。大切なのはパウロがペテロ、ヤコブ、ヨハネそのほかの使徒たちとおなじように神の召しによって権能を受けたことである。これらの使徒の中で、一人でも人間の意志によって権能を得た者はない。われわれはみな、もっと明らかにされていたならとねがうことができるであろうが、主なる神はすでに彼らが導きと教えを施すことを認可しておいでになり、われわれはそれが真実であることを知っている。

ヨハネの兄弟であるヤコブは、わずかの間導きと教えを施しただけで切り倒されて殉教したことをわれわれは知っている。最初に聖任されたこのほかの十二使徒たちの活動は、神秘の中に包まれていてわれわれにわからない。わかっているのはこれらの人々が忠実であって、「黙示者ヨハネ」だけのをこして最初に聖任された十二使徒もパウロもみな殉教の死をとげた形跡があるということである。「黙示者ヨハネ」は命を保って、ヨハネが生まれる六百年前にニルファイに与えられた啓示の通り、主の再臨まで導きと教えを施すわざをつづけるのである。

信すべき事実が報道されていないために、人はこれらの使徒たちに関し、容易に誤らせられてまちがった結論に達する。パウロの場合には、彼が伝道の働きをするにあたってすぐれた書記を伴っていたので、われわれはパウロの旅行と導きと教えを施す働きについてもっとよく知っている。最初に聖任された十二使徒はその導きと教えを施す働きをしているうちに、評議の会のため集まる機会をほとんどたななかつたことは明らかである。当時の情況は今日一般にある情況とひじょうにちがっていた。パウロとバルナバ、またはシラスとそのほかの兄弟たちが国々の民の中へ出て行くときには、徒歩で行かなければならなかった。そして時々はロバの背に乗

(四三三頁に続く)



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史料

37

第三部 オハイオおよびミズーリ時代

第二十二章 クレー郡の人々聖徒を受け入

れず——背教と悲しみ

(千八百三十六年——千八百三十七年)

三、聖徒らの返答。それから三日後、千八百三十六年七月一日に聖徒らは評議會を開いて返答を一文にまとめた。聖徒らはクレー郡の人々の要求をいれたときには財産の損失をまずにもかかわらず、彼らの要求を受け入れることにした。その上、二年半以上クレー郡に滞在したあいだに市民たちから受けた手厚い待遇に対して感謝の意をあらわした。クレー郡の市民の中の多くの人々は、モルモン教徒に同情をして、クレー郡からひきあげるとき物質上の援助を提供して聖徒たちを助けた。しかし、この徹底的な処置をとったのは、彼らが心から思っていたように、クレー郡のために最も利益となるような行動をとったのであると言おうではないか。

教会の大管長会がこの最後通牒のことを聞いたとき、大管長会はミズーリの聖徒たちがとった処置を完全に承認し、クレー郡委員会へさし出した手紙の中で承認した事実を委員会へ知らせた。またその機会を利用して、委員会の人々が心して読むならば、その正義感と同情心とを動かすはずである多くのことをけんそんな心持ちで知らせた。

四、カルドウエル郡組織される。この決定に従って、聖徒たちは事情がゆるせばすぐにクレー郡から移住をはじめ、クレー郡の北に当たる未開拓の地域にあるショール・クリークにおちついた。

聖徒たちはその地方にいたわずかな入植者たちのもつていた土地を買い入れて彼らの家を建てはじめた。そして千八百三十六年の十二月までには、かなりの数の聖徒が居を定めるようになったので、一つの郡を組織したいという請願が知事のもとに出された。この請願は十二月のなかばごろに許可されたので、今や正式に郡になったことと将来平和に住むことができるという見通しがついたために、モルモンの入植に一層拍車がかげられ、カルドウェル郡は「ヨナのひさごのように」急に大きくなった。

五、カートランド安全協会。一方、カートランドではしばらくの間万事好都合に進展していたので聖徒たちは多くのめぐみを受けました。しかしながら、このような状態はいつまでもつづかなかった。千八百三十六年の十一月二日に「カートランド安全協会銀行」を組織するための契約条項が作製されたが、オハイオ州当局は偏見のためこれに対する免許を与えなかつたので、その件は千八百三十七年の一月までそのまましておかれ、一月になってようやく法律の規定する範囲内で一つの協会が組織された。そして、開始された事業のために株が募集された。千八百三十七年という年はアメリカ全土にわたって投機が盛んに行なわれていた。そして、カートランドにおける聖徒たちにもこの投機の風潮に乗った人たちがあつたが、いくつかの事業の思わくは期待通りに行かなかつた。教会の会員のなかにも事業に金を出している人たちが多くあつた。「カートランド安全協会」の株をもつていた教会の大幹部そのほかおもだつた兄弟たちは、「安全協会」が発行した手形に対し特殊の高にに応じてすべて買戻しの責めを負うことを誓っていたが、この「安全協会」には州政府の発行する免許がなかつたから、ほかの銀行は「安全協会」

振出しの手形をひきとることを拒絶した。この協会の会計係は、かつて予言者ジョセフ・スミスの書記をしたことがあり、教会の忠実な会員であつたが、不徳義な行爲をしていたことが発見された。彼は見せかけの悔い改めと告白をしてその罪を赦され、教会員としての地位を保っていたが、まことの信仰を再びとり返すことなくまもなく教会から離れてしまった。彼は協会の基金を二万五千ドルも着服していたので、協会は財政上危険な状態に追いこまれていた。協会の経営がこのような有様であつたので、予言者は警告を発したけれども聞かれなかつた。それで千八百三十七年の夏、予言者はその事業から手を引き、役目を辞してすべての株を処分し、それまで五ヶ月間の経験でけつこうである「教会だけでなく全國民にもめぐみを与えるために正義の上になたてられたこの種の公共団体は、このような暗黒と思わくと悪事の横行している時代には一つもその運営をつづけることを許されないであろう」と言つた。

六、千八百三十七年に起こつた経済界の恐慌。この時千八百三十七年の恐慌がアメリカ合衆国の全土をおそつて、三月と四月だけでもニューヨーク市における支払停止は一億ドル以上にのぼつた。そして無数の商社と銀行がどうにも動きがとれなくなつた。経営がなつていなかった「カートランド安全協会」が、ほかとおなじように支払停止をせざるを得なくなつたのはまったく当然なことであつた。

七、このほかに経済上の困難を生じた原因。このほかにも聖徒たちの中に経済上の圧迫を起こし、また教会の大きな負担となつた原因がいくつもあつたが、それらは敵の手によつて加えられた多くの苦しみとカートランド神殿建築に附随する諸経費であつた。これ

に加えるに、福音を信じて教会へ入った貧しい、暮しに困っている人々がカートランドへやってきて援助と必要な住居とを求めた。そこで、これらの人々が家族をよびよせるために家が持てるよう、これら貧困者のために広大な土地を得るための契約が結ばれた。しかし、この土地に入った人たちは、人間が誰でも持っている怠慢であるが、かならずしもすぐに土地の代金を払ってくれなかった。

八、背教と悲しみ。このような状態の結果として背教が急速に起こった。そして予言者のことばによると「教会をただちに倒して息の根をとめてしまうために、この世と地獄がとくに総力を結集し全力をあげてかかってきたかのよう」に思われた。教会外部の敵は教会内部の背教者たちの助けを借りて、予言者が教会という共同社会の中ばかりでなく、アメリカ全土の中にあるあらゆる悪の原因となる元じめであるかのように、一致して予言者を倒す企てをめぐらした。しかし、もしも聖徒たちが予言者の勧告に従っていたならば教会にふりかかった大いなる悪は避けられたであろうというのが真相であった。背教は、教会内のあらゆる評議会の中にもあらわれ、かつて教会に忠実であったおもだった兄弟たちの多くが背教者の中に入った。

九、心の清い者は堪えることができる。これよりたった一年前に神殿の中であのすばらしいあらわれに接した人々の中、多くの者がこのような苦々しい精神をもっている現在のみじめな状態は考えても不思議というほかはない。これらの者は、すでに受けた多くのめぐみと、すばらしい示現と、もしも導きと教えを施す業に忠実であるならば果されるにちがいない主の偉大な約束とを忘れてしまったようであった。平和と和合とを楽しんだちょっとの間に、投機の

精神と富を得たいというねがいが多くの人々の心をくもらせて彼らの身も心もかつての兄弟たちに対するはげしい憎悪でいっぱいになってしまった。かつて自分が大切にして愛していた人々、また自分を愛すると人前ではつきり言った。人々からジョセフ・スミスは「墮落予言者」と言われた。その中には、痛烈なにくしみと心の暗黒から予言者の命をねらった者さえあった。予言者の幸福をねがう予言者の味方になって語った人たちはあざけり笑われひじょうにけいべつをされた。この時こそ、人々のところがためされ、自ら清く保つて世の人の罪によってけがされなかった人々だけがころみに堪えることができた時であった。教会の会員たちに予言者を見ずてさせるために、あらゆる力を用いて会員を圧迫した。それがために、多くの善い人々が網の中にひきずりこまれ、そのほかの人々はようやくのがれることができたが、心からのけんそんと悔改めによつてだけ、多くの人々をつれ去ったおそろしいほろびから救われることができた。ブリガム・ヤング、ヒーバー・シー・キンボール、ウイルフォード・ウッドラフおよびジョン・テイラー、ウイラードリチャーズを含むその他の人々は、教会へ入ってから間もないころであったが、これらの人々が兇悪な反対の精神に対抗して予言者ジョセフを擁護して気立く立ったのは正にこの衆人離反の時であった。

十、予言者ミズーリを訪れる。千八百三十七年の九月に、大管長会のジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人は、ミズーリにいる聖徒たちが集合する場所を定めるためにミズーリへ行った。このとき、カートランドから来たそのほかの兄弟たちも二人と一しょに行つた。一行は十一月の始めころにカルドウエル郡に着き、す

ぐさま聖徒たちの住む場所についてその地の長老たちと評議に入つた。この時評議にあずかったのはジョセフ・スマイス、シドニー・リグドン、ハイラム・スマイス、トーマス・B・マーシュ、ウィリアム・E・マクレリン、ライマン・E・ジョンソンおよびオハイオから来たウィリアム・スマイス等の人々であつた。このほかウィリアム・W・フェルプスを会長とする、ファーウエストにおける教会の高等評議員会の会員もこれに加わつた。そして、この土地には余地があるから、ほかの土地から聖徒たちを招いて居住させるのは望ましいことであるときまつた。すでに設計がすんで具体化しているファーウエストの市が集合の中心地に選ばれた。しかし、すでにきまつている通り主の宮をファーウエストに建てることは、主がそのみこころを啓示して開始させたまうまで延期することに決した。

十一、**ジェルシャ・スマイスの死。** ハイラム・スマイスがファーウエストで聖徒を居住させるために助けを与えているうちに悲しい出来事が起こつた。それは彼の妻ジェルシャ・バルデン・スマイスの亡くなつたことであつた。時に千八百三十七年十月三日。彼女が死ぬ間際に五人のおさな子供たちに言ひのこしたのは「お父さんが帰ってきたら、神さまがお母さんを天のお家へつれておいでになるから、子供たちをおねがいしますとお母さんが言つたと言ひなさいよ」ということばであつた。

十二、**予言者を廃しようとする企て。** 大管長会のジョセフ・スマイスとシドニー・リグドンは、十二月の十日にミズーリからカートランドへもどつてきた。もどつてきて見ると、二人がるすにしていたあいだに、ワレン・パリッシュ、ジョン・エフ・ポイントン、ルーク・エス・ジョンソン、ジョセフ・コー、シルヴェスター・ス

ミスそのほかおもだつた評議員たちが一致して教会を倒そうとしていた。この中には早いころに反抗の精神を示したことがあつたけれども悔改めをして見せたのでもと通りにしてもらつていた人々があつた。しかしながら、そのころの中から悪がすっかりなくなつていたのではなかつた。中でもワレン・パリッシュは「七十人」であつて、つい二・三ヶ月前には予言者から最も信任をされた、予言者の最も親密な最も大切な友人の一人であつた。それが、罪を犯したために、今では予言者を最も憎む敵の一人となり、予言者をその位からしりぞけてかわりにデビッド・ホイットマーを立てようとする運動の首謀者になつていた。これらのともがらは、神殿を自分たちのものであると主張してその中で度々集会を開き、暴力にうつつあつてまで彼らの争いをつづけた。このようにして、ついさきごろ主が喜んで受けたもうたカートランド神殿は、その神聖をけがされてしまつたのではや主の御名にさきげられた神聖な宮でなくなつてしまつた。

十三、**英国伝道部。** このような試練と艱難に逢つている時代に、主のみことばがジョセフ・スマイスに下つて教会を救うために何かをしなくてはならないと仰せになつた。その解決法とは大英帝国に福音を伝えることであつた。六月の四日（日曜日）に予言者はカートランド神殿でヒーバー・シー・キンボールに近づき彼に耳うちして言つた。「ヒーバー兄弟よ、主のみたまがいま私にさきやいて『わがしもべヒーバーを英国につかわしてわが福音を宣べ伝えさせ、かくして救いの扉をかの国民に開かせよ』と仰せになつた」と。これを聞いたキンボール兄弟は自分の弱さを感じていたので、ブリガム・ヤング長老も共に行けないだろうかとなつた。予言者は

これに対して、主はブリガム・ヤングのかわりとして何かほかのものを持っておりたもうと答えた。こうした会話につづいてキンポール長老は大英諸島に偉大なはたらきするため特に任命をされたのであるが、これは教会が外国で行なった最初の伝道となつたのである。このとき大管長会がキンポール長老を特に任命をしている最中に、十二使徒評議会の会員であつたオルソン・ハイドが入つてきて自分の同僚に祝福がさずけられているのをきき、自分にもまたそのはたらきを助ける特権を授けてもらえないだろうかとなつた。ハイド長老はそれまで投機をしたために心が乱されていた仲間の一人であつた。今や彼のこころは柔らぎ自分のあやまちをみとめて祝福を与えられんことをねがつた。彼のさきげものは受け入れられて、大英帝国に宣教師としてはたらくため特に任命をされたのであつた。

十四、カナダにおけるはたらき。長老たちを大英帝国へ送らうとする動きは、カナダにおけるはたらきから生じた自然の結果であつた。前から数人の長老たちはカナダへ旅行をしてそこで福音を宣べ伝えていた。オルソン・ブラット長老が始めてカナダに福音を宣べ伝えたが時に千八百三十三年であつた。その年の秋には予言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人が、少しの間中部カナダ（今のオンタリオ地方）へ福音の伝道に行つて多くの改宗者を得た。下つて千八百三十六年には、パーレー・P・ブラット長老がトロント市およびその周囲のいなかへ行つて福音を宣べ伝えすばらしい成功をおさめた。ジョン・テイラー長老（後に十二使徒評議員会の会員となり、さらに教会の第三代目大管長となつた）が福音を信じたのは、この年その地に於いての出来事であつた。また、ブラッ

ト長老の説教によつてジョセフ・フィールディングとその二人の兄弟（その一人のメアリは数ヶ月後にハイラム・スミスの妻になつた。もう一人はマーシイ・R）がバプテスマを受けたのもこの地である。このほかカナダで福音を受けた人々はジョン・グットサン、ジョン・スナイダー、イサク・ラッセル等であつた。これらの人々はすべて大英帝国にいる親戚友人と文通をしていたので、まことの教会が新大陸に創立されて大いに發展をしていることをこれらの人々に手紙で知らせた。このようにして英国伝道という来るべき出来事の準備ができていたのである。

十五、大英帝国へむけて出発する。ウィラード・リチャーズ長老は大英帝国へ行くようにたのまれたので、千八百三十七年六月十二日にシドニー・リグドンとハイラム・スミスによつてとくに任命された。またそのあくる日、ヒーバー・C・キンポール、オルソン・ハイド、ウィラード・リチャーズ等の長老および英国のハネドンから来た祭司のジョセフ・フィールディングは大英諸島に伝道をするためカートランドを出発した。ブリガム・ヤングその他の人々は、フェヤポートまで同行してこの一行を見送つた。宣教師たちのこの小さな隊は後にイサク・ラッセル、ジョン・グットサン、ジョン・スナイダー等が加わつてその数を増し、千八百三十七年六月の二十三日、この一隊は商船「ガリック号」に上船してリバプールへ向けて航海の途についた。そして、七月の二十日この「ガリック号」は無事マーセイ川に錨をおろしたのであつた。これらの兄弟たちは上陸するとすぐに、リバプールから約三十マイルのところにあるプレストンへ行つた。すると、その日はちょうど国會議員の選挙日にあたり、また最近王位についたヴィクトリヤ女王は内閣を組織しよ

うとしていた。宣教師たちが客車から降り立ったとき、彼らの頭の上にある旗に「真理は常に勝つ」と金文字でしるしてあるのを見た。彼はこれをさいさきのよいしるしとして受けとったのであった。

ジョセフ・フィールディング長老にはゼームス・フィールディングという兄弟があつて、 preston に住み牧師をしていたので、宣教師たちは千八百三十七年七月二十三日の日曜日にこの牧師の説教を聞くために出かけた。すると礼拝のときにフィールディング師は、今日はアメリカから数人の宣教師が来ておられるから、午後にもその方々の説教をさきましようと思ふことを發表した。宣教師たちはこの招待をうれしく受け入れて、まずキンボール長老が短い話をしつづいてハイド長老が話をした。その晩、フィールディング師は再びグットサン兄弟とフィールディング兄弟に教壇から説教をさせた。これで英国に福音を伝える扉が開かれたのであつた。

註。教会を救うために、大英帝国へ長老たちを派遣するという予言者ジョセフの受けた靈感が正しかったことは完全に証明された。それは伝道が開始されてから数ヶ月のうちに何千人という人がバプテスマを受けて会員になつたからである。このうちの多くはアメリカへ移住して教会の大黒柱となり、ひじょうに大きな支部がいくつも英国の各地にできあがつた。

その次の水曜日(千八百三十七年七月二十六日)にもう一度集會がゼームス・フィールディング師の教会堂で開かれた。このときハイド長老とリチャーズ長老とが説教をしたが会衆は大いに心をひかれた様子で、多くの人がその説教に心服してバプテスマを受けたいと申し出た。この有様を見ると、フィールディング師は自分の教会

の信者が全部なくなつてしまふことをおそれて、その後は自分の教会の扉をかたくとぎして長老たちを中に入れず、以後全力をつくして宣教師たちのはたらきに反対をした。しかしながら「神の御国」のはたらきはすでに始まつた。そして、長老たちのために足がかりはすでにできて、多くの人々から自宅で説教を聞きたいという招待を受けた。このようにして、はたらきは急速に全国にひろがり、多くの支部が組織されて、多くの人々がその罪を赦されて救われんことを求めた。

十六、「十二使徒」に下つた啓示。英国で始めて福音の説教が行なわれた当日、すなわち千八百三十七年七月二十三日、主はジョセフ・スミスを通してトマス・ビー・マーシュとほかの十二使徒会々員に啓示をたまわつた。そしてこれらの人々は「腰をひきからげて十字架をとり、救い主に従つてその羊を飼え」と命ぜられた。また主は「汝ら自らを高うするなかれ。而して、わが僕ベジョセフにそむくなかれ。そはまことに汝らに告ぐ、われは彼と共に在り、わが手は彼を護ればなり。されば汝らのために彼に与えたる鍵は、われの来るまで彼よりとり去らるることなかるべし」と仰せになつた。

これはまことに時を得た警告であつたというのは、その当時でさえ「十二使徒会」のある会員は、教会の敵とひそかに共謀をしていたからである。彼らの行動はそれからますます發展して、前にちよつと述べたようについにその年の暮れないうちに公然たる謀叛となつた。

十七、フレデリック・G・ウィリアムス職を免ぜられる。千八百三十七年十一月七日、フアーウエストで開かれた長老たちの大会

で、会衆はフレデリック・G・ウィリヤムスを大管長会の副管長として支持することを拒絶した。そして、そのかわりにハイラム・ミスが任命された。フレデリック・G・ウィリヤムス、ライマン・E・ジョンソン、パーレー・P・プラット、ワールン・パリッシュ等の人々は前から教会の高等評議員会へ出頭するよう召喚されていた、これらの人々には告訴が提起されていたのであるが、当の高等評議会の組織が不当であったために何らの処置もとられていなかった。フレデリック・G・ウィリヤムスは、千八百三十七年の前半に投機を行ない財政上のもめ事があったために、多くの人々から心が離れ、教会からも離反するようになった。

十八、ブリガム・ヤング、カートランドを脱けて出る。予言者ジョセフ・スミスに敵対する感情が千八百三十七年の暮も間近かになつてひじょうに高まつたために、カートランドで予言者の味方になつて弁護する者は誰でも危険を覚悟しなければならなかった。千八百三十七年十二月二十二日の朝、ブリガム・ヤング長老はカートランドを離れた。これは教会の敵の怒りがはなはだしかったためである。ブリガム・ヤングはそれまでジョセフ・スミスは「いと高き神の予言者」である、背教者たちの主張するように罪を犯してもいなければ墮落もしていないと公然主張してやめなかつたから、背教者たちは彼をただでは置かぬと言っていた。

以上が、千八百三十七年がまさに暮れようとするときのカートランドの形勢であつた。

(四二六頁より続き)

り、地中海をわたるには舟に乗って行かねばならなかつた。しかし、どの方法によるにせよ、当時の旅は骨のおれる、そして長い長い旅であつた。彼らは友人にたのんで持つて行つてもらうほかに通信の方法がなかつた。パウロはその手紙の中に度々、友人の世話で知らせと挨拶を送るとしている。ペテロの手紙を見ると、彼はその中でパウロのことについて次のように言っている。

「愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるようにはげみなさい。また、わたしたちの主の寛容は救いのためであると思ひなさい。このことは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、彼に与えられた知恵によつて、あなたがたに書き送つたとおりである。彼はどの手紙にもこれらのことを述べている。その手紙の中には、ところどころ、わかりにくい箇所もあつて、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈を施して自分で滅亡を招いている。愛する者たちよ、それだから、あなたがたはかねてから心がけているように、非道の者の惑わしにさせないで、あなたがた自身の確信を失ふことのないように心がけなさい」(ペテロの第二の手紙三〇—四一—十七)。

私の改宗

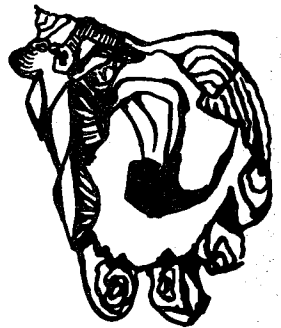
ジェームス・R・サーヴァー博士

(ジェームス・R・サーヴァー博士はカトリック信者で世界的な宗教学者として又神学及び語学の教授として二十五ヶ年間、中華民国の南京大学で教鞭をとった。彼はアメリカ東北部の講演旅行をニューヨークを最後として帰途についたが、その途中、ソルト・レーク市に立ち寄った。ニューヨークで彼はその生涯の友人であるラジオで有名なカトリックの監督、ファルトン・シーン及びスペルマン枢機卿を訪れた。以下は彼自身によって語られた証である)。

私は南京から約三百哩離れた上海に講義に行った。そして教授である友人と共に夜の街に出て出発前に夜食をとる為或る飲食店に入った。私は入るとすぐ、黒い服を着た二人の若い青年が食卓に着いてサンドイッチを食べているのに気が着いた。私は中国に二十五年間も生活して来てこの近辺に住んでいる殆んどのアメリカー人を知っていたがこの二人の若者をまだ見たことがなかった。私は彼らがミルクを飲んでるのに気がついたが、中国の夜の街で、そのような光景は見られないことであつた。私は彼らが長く待たされてるののでその場しのぎにミルクを飲んでるのではないかと思ひ友人に同

国人のよしみで何か出来ることなら援けてやりたいからと話して彼らの食卓に近寄つて行つた。そして私は彼らに何か飲物をお取りしましょうかと呼びかけ、ミルクを指して、もしよかつたらコーヒードも、と言うと彼らはコーヒードも飲まないと答えた。そこで私は貴方たちの嗜好は何ですか、若し私で出来ることでしたら何でもお手伝いしましょうと言うと驚いたことには、彼らはモルモンの宣教師でパレストアインで二ヶ年間の伝道を終えて帰国の途中であると告げられた。そこで私は私も同様の仕事に従事しているから少しお話し合ひましょうかと言って同席した。彼らはサンドイッチを食べ終わると私に向かつて、モルモン教に就いて何か知っていますかとたずねた。私は彼らにモルモン教徒が一夫多妻を実施していた事やイリノイ州及びミズーリ州から追い出された事などに就いて多くの事を聞いたと告げたが彼らはモルモン経に就いて私に語り始めた。

彼らはジョセフ・スミスが天使から金版を受け取つて、それを八ヶ月間で譚訳したと告げた。彼らは私が若し読むことを約束するならば、一冊提供したいと言われたので、私は読みたいと約束した。けれども私の心には聖書は二十五回も訳されたが、その都度十年から



十五年もかかったことがはっきりしており、私のように永年聖典に親しんで来た者に、貧弱な二人の若い宣教師がこの書物がわずか八ヶ月でエジプトの象形文字を修正したカルディア語から英語に、若い人（二十才代で）によって訳されたことを無理やりのみこませようとしているとしかとれなかった。そこで私は内心、それを読むことを保証出来ず彼らにすまないと思いつながらも、その書物を受け取った。ところが驚いたことには別れに臨んで彼らはお祈りをしたいけれどよろしいでしょうかと私に頼んだ。私はどうぞと云って、彼らが私の為に、私の心が開けてその書物の真実なることを理解出来るようにと祈ってくれるのを聞いて、馬鹿らしく、こっけいにさえ感じたのであった。彼らが立ち去ってから私は友人の教授に向かつて、「またここに二人のいい若者が背教の道を迎っている」と言った。既に三千五百の宗派があり、シカゴだけでも四百の宗派がある。私はここ数年間の内に更にどれだけの宗派が起こって来るだろうかと思った。

私は受け取ったモルモン経を数週間、図書室の机の上に置きっぱなしにして置いた。而し私は何か得るところがあるだろうかと思つて或る日曜日に、この書物を取り上げて読み始めた。私は語学に通じていた（十五ヶ国語話すことが出来た）のでそれがカルディア語で書かれたものであったと認めることが出来た。私は五回読んでから、翻譯に於いては第一人者である友人の教授に送った。彼は、彼の知る限りに於いてそれは純粹のカルディア語であったと判断すると返答してこの書物を戻して来た。そこで私は、よしそれではジョセフ・スミスと云う詐欺師が如何に盗作の罪を犯したか証明してやる、けれども先ずその内容を証明せねばならないと考えた。

書物の最初に、リーハイと云う非常に金持ちの予言者が天使からエルサレムの滅亡を警告されたと告げている。これは約紀元前六百年のことである。天使はリーハイに、その家族を伴って荒野に行くように、そうしないと彼らは滅ぼされるであろうと告げた。そこでリーハイはその言葉に従った。けれども三日後に彼は、ヘブライ語で書かれた彼らの家族の系図の含まれている記録を、親戚のレーバンの手から取って来る為に息子たちをエルサレムに送り返した。最初彼らは失敗した。二度目にレーバンは彼らを捕え、その持物を全部没収した。けれども彼らは脱走することが出来た。リーハイの息子のニーファイは天使からレーバン王を彼の手に渡すと言う指令を受けて夜に又戻って行った。彼は王宮へ行く途中にレーバンに逢った。レーバンは長老たちの処へ外出し酒に酔ってニーファイの足下に倒れていた。ニーファイは、一人の亡びるのは、全国の民の信仰がなくなつて亡びてしまうよりはよい、と云うみたまのささやきに応じてレーバンの首をうち落とし、レーバンの衣服をとって自分の身に着け、レーバンの家に行きレーバンの声色をつかつてレーバンの召使に兄弟の処へ持って行き度いから宝庫を開けて記録を渡すように要求した。（召使はその夜レーバンが行った長老たちのことを言っていると思つた）実際にはその兄弟たちは市の城壁の外で待っているニーファイの兄弟、レーマンとレミュエルであった。更にこの話は、単に記録が得られただけでなく、召使のゾーラムが若し彼らと共に行くなら赦してやると言われて彼らに従ったことをも告げている。

私は五十年間、図書館員をつとめた（彼はニューデリーでと言つた）一人のユダヤ人を知っており、若しもモルモン経に書かれて

あるような人物が実在したのなら彼が確に知っているであろうと思つた。私は手紙を書くよりも直接旅行して彼をたずねた。そして図書館に行きわざわざこんな遠く迄来たのだから一冊をも見逃がすまいと思つた。そして彼にその内容を話し、何かそのような事に關した記録があるだろうかとなずねた。彼は他の部屋に行つて一冊の書物を持って来て「私の知っている限りではこれが唯一の記録である」と言つた。

それは逃亡した暗殺者の一味に就いて述べられてあつた。記録は盜まれたが殺人者は遂に捕えられなかつた。更に彼ら一味の者は荒野をさまよつた後、船を造つて大海を渡つて行つたがその後の消息は不明であると記されてあつた。これは正にモルモン經に記されている事と一致している。私は今更のように驚いて、このモルモン經を丁寧に読み始めた。当時使用された貨幣單位に就いても、適當な場所を照合して調べた処、それは正確なものであると云う返事を受けた。

私は何か欠陥がないだろうかと注意深くさぐりながらモルモン經を二十二回読んだ。そして最後の時にはその一言一句に就いて又その英訳にも仔細に検討したが何ら欠陥を見出すことは出来なかつた。けれども私はこのジョセフ・スミスと云う男がこの記録の写しを何処かで入手して、それを写し取つて自分のものであると主張したに相違ないと思つた。そこで私は調査員に頼んでアメリカ合衆國に於ける、すべての大学及び図書館にそのような記録が無かつたかどうか調べてもらったが、何処にも無かつたと云う返事であつた。彼らはいつとも恐らく、ジョセフ・スミスはその記録を天使から受けてその記録と共に在つたウリムとトムムム及び胸當の力によつて齣

訳し、それから十一人の証人に示した。これらの人々は金版及びウリムとトムムムに触れそれを証した。そこで彼は版權を受けてモルモン經として知られているこの書物を出版したのであつた。

それ以来私はモルモン經は、誰が書いたものであつても權威あるものであると証明した。私は百四十五人のヒンズー教徒の学生たちに講義をする約束をした。私の講義は約一時間半ばかり私は彼らに長くひきとめたことを詫びた。けれども彼らは、もっと聞きたいと申し出て私はこれに応じて更に二時間続講したが、更に彼らの要請に応じて七時間半の講義を続けたのであつた。私は彼らが坐つてゐることにすっかり疲れてしまつたであらうと思う程講義したのであつたが驚いたことには、彼らはこの講義にすっかり心を奪われてしまつたのであつた。そして私はその時、私が現在持つてゐる程の知識を持つていたら、モルモン教会のデビット・O・マッケイ大管長に頼んでバプテスマを授ける為に誰かを送つてもらつたでしよう。何となれば彼らは皆改宗していたのであつたから、けれども私はその時、まだモルモン教徒でなく、マッケイ大管長をも知らなかつた。私はジョセフ・スミスが盗作したに相違ないと思われる原本を探す為にあらゆる努力をしたが発見出来ず所謂、私の調査は壁につきあつてしまつたので、今度はスミスの家の家族を調べて見ようと決心した。そしてその調査の結果私は彼の一家が、貧しい農家で非常に勤勉忠実な家族であつたと言われていることがすべて真実であることを知つた。私は彼の書物が偽作であるか又はジョセフ・スミスが詐欺師であるかを証明しようと思つた。私はジョセフ・スミスがどちらをも証明出来なかつたのである。そしてそのことが私をして、ジョセフ・スミスが記録の齣訳に使用したと言われ

るウリムとトムミムに就いて関心を向けさせたのであった。私はまだ一度もそれを見たことがなかった。けれども私はその絵を見たことがあった。その上私は主が無学な農家の一少年を予言者として召されることを信ずることが出来なかった。この時、予言者が実在したとしても私はそれを信ずることが出来なかった。私は考えれば考える程困惑してしまつた。そこで私はモロナイ書、十章の始めにある約束の言葉を思い出した。

「ごらん、私はあなたたちにすすめたい。あなたたちがこの記録を読むことを神が許したもうならば、あなたたちはこの記録を読む時に……、心の中に深く考えてほしい。またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって、永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば神は聖霊の力によって、この記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

これが最後のテストであつた。私は常に祈っていた人間であつた。そこで毎日私はこの書物が神性な力によつてもたらされたものであるかどうか知りたくと祈っていた。私は何週間も祈つたけれども尚まだジョセフ・スミスが天使から金版をうけたかどうか、そして又その金版から訳したかどうかを疑っていた。そして私は上海で逢つた、アルコドルも、コーヒーも飲まない、二人の若い宣教師のことを思い出した。そして私は主が私のこのような悪い行い（酒、コーヒーを飲む）を喜ばれないのではなからうかと思つた。

「若しも私が、もっとへりくだつて悔い改めたら、答えを受けるかも知れない。私は決して大酒呑みではなかつた。けれども少しの晩酌を好みパイプやシガレットを口にシウイスキー入りのソーダをよ

く飲んでゐた。けれども私は遂に晩酌を止めパイプやシガレットを口からはなし私自身を神のみ手にゆだねる決心をした。私は神の約束したもうた御言葉に従い、その結果がもたらされるかどうか、ためして見ようとした。

約五週間が過ぎた。その間私は、この書物がもたらされた真実を知りたいと願つて心から祈り求めた。ところが或朝、それは安息日の朝であつた。私の妻が既に起きて朝食の準備をしている時、私はベットに横たわつてゐた。私はこの書物が真実なものでジョセフ・スミスによつて訳されたかどうか、私の心からなる祈りに、どうして答えがないのであろうかと思つてゐた時であつた。突然私の口もきけない程の力を以つて表示された。私はこれは妻にのみ語るべきことだと思つて起き上がつて衣服を着けて台所に行つて妻に語つた。驚いた事には妻はすべてを知つてゐた。

一九五一年、私たちはアイダホ州、ナムパに行つてパプテスマを受け末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となつた。そして六年間の信者生活をして今、講演旅行を終えてソルト・レーク市に到着した。私は東部を旅していた時に友人であるシオン監督及びスペルマン枢機郷の家庭に招待された。私は彼らにモルモン経を提供し、私にそれが真実であることを如何に証明したかを告げた。私は、彼らに今私が知つてゐる事を語り、若し今私が乞われるならばすべてのウラニューム鉱山を我が足下におさめるか或いはローマの最頂上に坐するかするよりも、モルモン教会の雑役夫となるであらうと告げた。私は彼らに若しも彼らがモルモン経が偽りであると、或いは又末日聖徒イエス・キリスト教会が天のお方によつて設立されたのではないと証明出来るなら私は再びカトリック教会に加入するであら

う。又数千弗を、私の自動車を、私の家を（二万五千弗、時価）更に私の妻さえも提供するであろう。そして私はカトリック教会の爲に無報酬で数十年も奉仕するであろう。私はこの申出を世の如何なる人に対しても敢てするであろうと告げた。

私は今、ソルト・レーク市にいます。過去六年間私は一度も神権会及び聖餐式を休んだことがなくこうしてここに來ることが出来たわけです。集會に間に合うようにロスアンゼルスに我が家迄歸ることが出来ないので妻と共に、ソルト・レークに立ち寄ることに決めたのです。私はバプテスマを受けてから酒、煙草、コーヒーに、触れたことなく、この六年間に十五人のカトリック司祭及び三千五百人の信者をモルモン教会に改宗させたのであります。私は南京の大学教授の職を辞しそれ以来低能児教育に従事し或成功を納めて來ています。

私は現在、フォエニクスに行つて低能児童の爲に学校を設立しようといふと計画しております。（今日この計画を彼は実行した）

一人旅の車中にて

名古屋支部 柳田聰子

日は沈み たそがれの野には
人影もなし

わが心 ただひとりなり
悩みは 胸にしずみて

さみしきわれは あこがる
天の父よ わが主よ

心あつく 呼ぼうよ
あこがれの 父よ

日々の わが悲しみは

胸の底に沈みて
はらからさえ 知るものなし

されど ひとりなるとき
わが心は痛む

父よ 父よ 来りて
わがかたわらに 立ちたまえ

あこがれの わが父よ



支部だより

札幌支部

支部長会及び各補助組織の役員が大幅に移動しましたのでお知らせします。

- 支部長 松下泰洋
- 第一副支部長 西島吉春
- 第二副支部長 本間吉広
- 支部書記 小林整功
- 支部書記補佐 吉田英
- ジェネラル・スイクレターリ 藤田秀光
- 支部長会補佐 倉見光男
- 日曜学校会長 藤田秀光
- 第一副会長 山本竹司
- 第二副会長 渡辺和彦
- 書記 柴田直毅
- YMMIA会長 小林整功
- YWMIA会長 是安厚子
- 副会長 熊谷瑛子
- MIA書記 三上瑛子

- 扶助協会会長 牧野千代子
- 第一副会長 砂川尚子
- 第二副会長 浅香和枝
- 扶助協会書記 室谷喜久江

教会運営に必要な委員会を組織しました。すべての会員が、いずれかの委員会に属し、働くことにより、支部の発展、あるいは、個人の進歩のために役立てることを目的としています。

- 施設管理委員会 建物、土地、備品の管理
- 西島吉春兄弟 清掃
- 建築委員会 建築資金の獲得計画
- 松下泰洋兄弟 建築の実行計画
- 親睦委員会 会員求道者の親睦
- 藤田秀光兄弟 系図委員会
- 本間広兄弟 神殿事業、系図の探究
- 音楽委員会 祖先の発見による死者の救いの準備
- 松下泰洋兄弟 全音楽活動の計画と実行

図書委員会 広く文書に関するあらゆる事柄を管理し会員に福音、研究の機会を与える。

本間広兄弟は、五月十九日の地方部大会において、長老の神権が与えられました。又、同札幌支部の清水圭子姉妹との婚約が発表されました。

お二人共、系図の仕事には、特に大きな感心を寄せ、すでに、多くの先祖を見つけていらつしやいます。伝道部系図委員会会長の渡辺正雄兄弟は、系図の仕事を通して結ばれたのは、大変喜ばしいことで、幸せな人生を歩むに違いないと、大喜びで、お祝いの言葉をのべていらつしやいました。

八月三日挙式

山本竹司兄弟と黒崎匡代姉妹婚約

黒崎姉妹は、バプテスマを受けて、四年になります。会員との結婚を強く望んでいらつしやいました。お二人は、職場で知り合い黒崎姉妹のさそいによって、山本氏は、教会に集うようになり、家庭集会、バプテスマを経て、今回の婚約のはこびとなつたわけです。黒崎姉妹は、最近、非専任宣教師の仕事を終え、山本兄弟の人柄はさることながら、モルモンと云う条件をそなえられ、又、山本兄弟は、本当にやさしく、教会生活においては先輩とも言うべき、たのもし姉妹と結ばれる喜びは、いかばかりかと、彼らを知る者、心からお祝い致します。

六月二十二日挙式

岡町支部

五月二十五日(土)

扶助協会主催のデザートパーティが開かれました。青葉の頃にちなんで木の葉の形の券が百円で売られ前日に秋元富佐姉妹指導のアップルパイの講習があつて沢山のパイを作り、当日はパイとアイスクリーム、ジュースをたっぷり頂き扶助協会のコーラス、宣教師の面白い劇、岡町ピーナツと秋元彬江、絃江姉妹の二重唱、秋元裕子姉妹のフラダンス等の余興があり楽しい一時を過ごしました。

五月二十九日(水)五週目の扶助協会でしたので豊中市にある刀根山療養所に九名の姉妹と二人の宣教師姉妹とで見舞に参りました。かるい看者さんが一室に集まつて下さったのでコーラス、お話、二重唱、お祈りをしてお花といちごを差し上げ、一日も早く御全快なさる様に、こう云う病気で苦しむ方が少なくなる様、又この方々が正しい教会を知り信仰をお持ちになるようにと祈り乍ら帰りました。

今年も例年の如くGOLD AND GREEN BALLが開かれました。M・I・Aの役員もこの日から新しくなり皆はりきつて前日から会場の装飾を致しました。お庭の木を切つて(余り切ると支部長サマに叱られては……との配慮から根のついたままとつてき後で又もとの所に植えていた兄弟もいま

たが)室内を緑の森の様な感じにし所々に金色のモールをのぞかせるなどこつたもので大好評でした。又休憩の時に出了た氷の間にレモンと庭のサツキの花の浮いた美しきおいしいジュースに一同大喜び致しました。

ここで全組織の新会長会を御紹介致します。支部長会、支部長 阪本弘、第一 中川宗幸、第二 辻達男、書記 牧瀬十二郎、日曜学校、会長 中本満 第一 丸川邦夫、第二 阪本偵司、書記 松本勝明、M・I・A・YM会長 杉村裕一、YW会長 秋元彬江、同副会長 講崎幸子、書記 宮川靖弘

扶助協会、扶助協会は五月より夜出られない主婦と昼では都合の悪い姉妹たちのために昼夜二部行なっています。会長 秋元富佐、第一 阪本晴子、第二 村川香代、書記 秋元彬江

岡山支部

五月四・五日に西中央部大会が三ノ宮でおこなわれました。岡山支部では十一人の姉妹と一人の兄弟が出席しました。岡山支部から西中央部大会に十二人の兄弟、姉妹が出席できたのは岡山支部はじめてらしいです。支部長さんは大へんよるこんでいらつしやいます。

八月にはM・I・A全国大会が東京でおこなわれますが支部からたくさん兄弟、姉妹が出席できますようにとみなガンパッテいまして。

又岡山支部は建て物を与えていただきました。この建て物の中で日曜学校、M・I・A等の集会はずもひらかれています。

岡山支部に七人の兄弟、姉妹がバプテスマを受けられました。谷本姉妹、柔原姉妹、古橋姉妹、藤井姉妹、阿部姉妹、小原兄弟、陶山兄弟です。

このバプテスマを受けられた方は今責任を与えていただいておりますが、この責任をりっぱにはたせるようにと努力しています。又扶助協会もふたたび岡山支部に発足することができました。これから岡山支部はもっともつと発展することができると思つてみんなガンパッテします。

支部長 フリーマン長老
日曜学校会長

今支部では会長の人がいなく、おもに第一副会長、第二副会長の人が中心になつて日曜学校をすすめています。

- 第一副会長 浜田姉妹
- 第二〃 陶山兄弟
- 書記 阿部姉妹
- 第一副会長 M・I・A会長 光岡姉妹
- 第二〃 古橋姉妹
- 書記 藤井姉妹
- 扶助協会会長 岡部姉妹
- 第一副会長 菅田姉妹
- 第二〃 池田姉妹
- 書記 池田姉妹

東京南支部

「長雨もなんのそのと、南の子らは支部の祭に、一、二、三、四」

梅雨にはいった今日、この頃、各支部の兄弟姉妹、いかがお過ごしですか。南支部におきましては、五月二十日から二十六日までの一週間、年に一度の支部大会が開かれましたので、ここに末日聖徒キリスト教会、会員の皆様、及び聖徒の道御愛読者に慎んで御報告申し上げます。

扶助協会

五月二十一日（火曜日）うつつうしい、なまぬるい日でしたが、地方部の役員の方々に初め、支部長さんの出席まで、いただき、扶助協会大会が、支部大会の皮切りを致しました。静粛なうちに和気あいあいとした雰囲気を保ちつつ、長谷川雪子姉妹の司会で予定時刻かきりに始まりました。

地方部扶助協会会長の鈴木姉妹のお話しは「会員の間でも小さい事を疎かにせず、愛を育て、集会を信じ会える場にしましょう。又その為に集会に出席致しましょう」というメッセージ、及び「南支部は、たいへんまとまって活動しています」との、おほめのお言葉をお聞きいただき、私たちは、ほのかな誇りを覚えた次第です。続いて、内山姉妹（コーラス二八五番をはさんで）、マン姉妹、中東姉妹、地方部扶助協会第一副会長の浅川姉妹、川田支部長の方々からお話を伺い、扶助協会の目

的である、愛と奉仕、や「扶助協会を身近なものに」ということが強調されました。中には、扶助協会に出席している婦人なら、私の妻にといった、兄弟の言葉が出たりして、思わずほほえむ、などの一こまもあり、私たちは扶助協会の重要な、すばらしい任務を知ると共に、現在日本の扶助協会はどうあるべきか考えさせられました。まずは扶助協会の目的を知り、欠かまらず出席することが何よりも大切であると思えました。話をして下さいました皆様、心からのお話をありがとうございました。部屋に準備された椅子がきれいにうまり終始落ち着いた扶助協会らしい暖かみがあふれた、すばらしい集会でした。

記事、野田由里姉妹

M I A

オリンピックは参加することに意義がある。参加することの意義はオリンピックにかぎらず、日常茶飯事、我が教会に社会に痛感すること、参加者が増加するに従って意義、又参加することによって得る喜びは、末広がりととなる。これには例外はないと思う。

南支部には音楽愛好家が沢山いる。それが反映してか、M I A に於いて音楽部門が盛況なのも何んの不思議はない。絵画クラス担当の小生にとっては少々不満である。司会者「今まで沢山の活動がありました、参加者全員絵画のクラスに出席してしまいますので今週から他の活動を中止します」これが小生の夢であり、又これこそ相互互達協会と言うべきか？とにかく現在は音楽の時代である。

そこで当然支部大会に於ける M I A は音楽祭とあいなったのである。プログラムは大会二週間前に、各々のグループに与えられ、同一時間に集まって練習する難しさにもかかわらず良く練習したと思う。ここに参加の意義が存在する。南支部の諸君は小生を除いて時間には厳しい。開会七時、中川紀代子姉妹の司会のもとに、百名近い出席者がおこなわれた。さて、それからが大変、ズウズウといればかりのはずどころか、どうしてそうではないらしい。中に純情な者がいたから途中でトチル、持ち時間が短縮する。ぶっつけ本番で出る者あり、とにかく予定通り行かない所におもしろさが倍加する。終始笑いがたえない。ハワイアンバンドあり、盆おどりあり、俗曲あり、艶歌師あり、シャミセンからウクレレまで聞き別けるのに一苦勞である。最後にもんで一緒に合唱して幕、かくして、どんぐりの背比べ、は終わったのである。確かに参加することの意義は大きかった。M I A は参加することに意義がある、と言うべきか。記事、浅野鶴緒兄弟

神権会

支部大会の最終日である二十六日は初夏、絶好なる天気に恵まれ、私たち南支部の神権者は、地方部長の今井一男兄弟、書記の小室敬兄弟をお迎えし、相共に集い神権会を開けましたことを感謝しております。支部長の川田益雄兄弟司会のもとに、プログラムに従い今井陽一兄弟が支部大会のテーマ、ローマ人への手紙一章を朗読した後、アロン神権、メ

ルケゼデク神権の二つのクラスに別れて、レッスンがおこなわれました。アロン神権においては、中村誠雄兄弟、今井一男兄弟、高吉兄弟により有意義な話をいただき、神権者としての祝福を感謝すると共に責任を感じ御国発展の爲、又、シオン建設の爲、これから一層の努力を払うよう自覚し、証を強めました。

記事、小高源太郎兄弟

一般大会

一週間の支部大会も最終日の一般大会は約八十五人の出席のもとで日曜学校会長の浅野兄弟の司会で行なわれました。久振りに前に十何人かながら出席者もみないつもより緊張気味でした。それだけに静かな重さの有る雰囲気の中で求道者生活の長い小川ヒサ子さんの心のこもった支部大会テーマの朗読で始まりました。パウロの強い信仰の表われである。我、福音を恥とせず、について教える様にの説教をする様にの経験を通して訴えるようにと各自の特味を生かした話が堀田兄弟、吉田姉妹、中東兄弟、そして地方部の小室兄弟から有りました。小室兄弟は相変わらず大きく人を必ず一度は笑う、御存知あの調子で最後の話をかざりました。

心もち緊張気味の浅野兄弟もプログラムが進むにつれいつものあっさりしたというか、そんな調子で良き司会を事なくやっていたのけました。本当に御苦勞様でした。

一般大会終わって庭でみんなと例にもれず記念写真。どうぞ一人一人の明るい喜びのあふれた表情をごらん下さい。

聖餐会

記事、坂本欽史兄弟

聖餐式でパンと水をいただいて誓約を新たにしたあと、三人の方からお話を聴きました。先ず、デザインナーは、いつでも誰もが見かけるようなありふれた生地から、新しいスタイルを造り出し生地をよみがえらせて行く。音楽家は誰がたたいも音が出るピアノから音楽を作り出す。特別の生地を、特別のピアノを必要としているのではない。万人が公平に所有する一日二十四時間も、二十四時間に支配されて過ごす人もあれば、二十四時間をうまく生かして過ごす人もある。教会堂建設と云う時期を迎えた現在、私たちは二十四時間に支配されて過ごすのではなく、時間をうまくデザインして、建設に励まねばならないと中川ヒカル姉妹が話しました。

次いで川田支部長より、南支部の現状報告が行なわれ、四月末現在、南支部は登録会員数二〇五名(男九十六女一〇三)、聖餐式平均出席数四十四名(約二十一%)

昨年バプテスマを受けた人は男二十七女二十七の計五十四名。その中現在教会に來ている人は、男五、女二十一の二十六名になっています。この数字は私たちに、何を教えているのでしょうか。私たちはこの大会を機に、ここで立ちどまって考えてみよう。私たちは皆、若いし、栄えある世界を控えている。ロマ書一章のテーマを通して、末の日に、この地で私たちが生活している事実を良く考えてみましょうと話され、最後に今井地方部長よ

り、メッセージを聴き、聖餐会を終わりました。(K)

記事、坂井圭兄弟

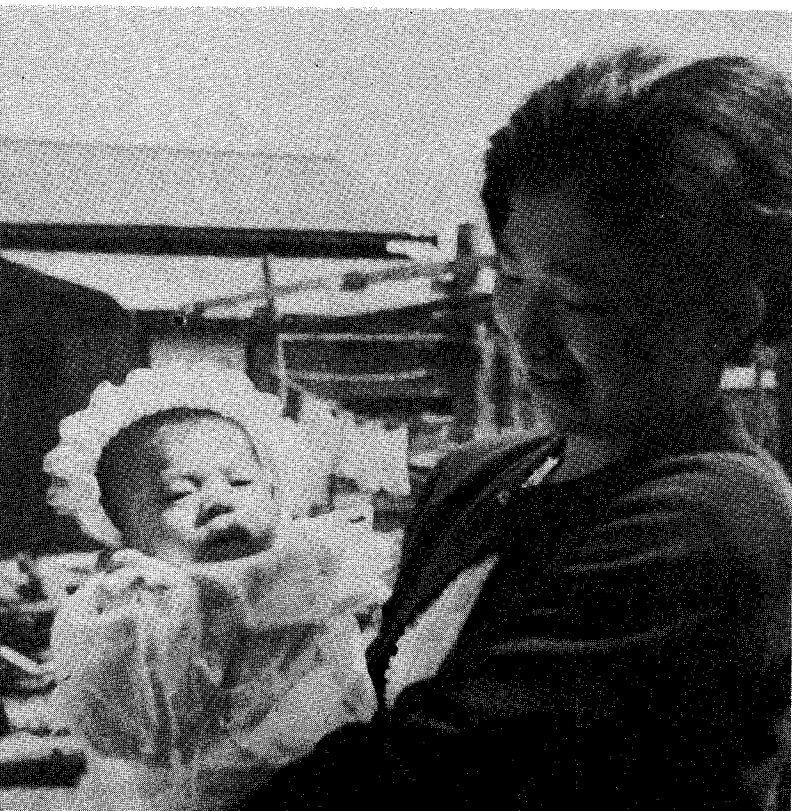
これから暑い日がつづきますから各支部の兄弟姉妹、どうぞお体を大切に良き全国大会夏休みにおそなえ下さい。

北の守り。 信仰の潟沼一家

五月十八・十九の両日に亘って北海道小樽市で北海道地方春季大会が盛大に開かれた。十八日夜のMIAは市議事堂のホールでタレントショー、各支部兄弟姉妹のはなばなしい競演の内に瞬く間に夜の一時は過ぎ去って行ったが最後に大綱をつかんで潟沼一利支部長を先頭にずらりと舞台一面に整列した小樽支部神権者一同の声高らかな大漁の歌、その他民謡は誠に素晴らしく、このタレントの夕べに一段と光を輝かした最後の王冠であった。

私はその調和した美しい歌声の中に支部長さんを慈父とした一大家族の小樽支部のはつらつと生長し行く姿を見、又躍進する息吹きを聞いたのでした。

支部長ではあるけれど一兄弟としてよく会員の中にとけこんで共に歌い働いておられる潟沼兄弟を小樽支部の兄弟姉妹たちは心から愛慕しておられる。そのなごやかな暖かい支部のふんいきに訪問者は誰でもすぐこの支部に非常な親しみを感じるようになるでしょう。この潟沼支部長さんのお父さんが既に七十才を越えておられるのに改宗され会員となり、而も神権迄戴いておられ本大会にも最後迄熱心に出席しておられ、皆の注目を惹いた次第です。息子さんである支部長さんはお父さんの為に教会の庭の責任を準備しておられる。この親思いの名支部長さんの弟さんの誠二兄弟が又素晴らしい信仰一家である。そして誠二兄弟は目下北海道地方部の第二副地方部長として現在第一副地方部長は空席なの



神は奇しきみわざを以って一歩一歩とそのとりでを固めて行くようです。

今春三月末に神権者の卵である御長男の潤ちゃんを恵まれた御二人の喜びは一方ならず、又一利兄弟のお嬢さんに引き続いてこの男孫さんに恵まれた御両親のお喜びも大変で本大会でも、おじいちゃんが潤ちゃんのお守り役をされておられた。潤ちゃんは非常な難産であられたようですが兄弟の神権と姉妹の信仰によって、又大いなる神の恵みにより、無事乗り切って、その後日まじに祝福され潤ちゃんを中心に日々御幸福な御生活を送って居られる。

本大会に私は柳沢地方部長と共に誠二兄弟の家に泊めていただき、北海道地方部の将来に就いて地方部長会と共に親しく語り合う機会を得たことは、ほんとに幸でした。柳沢兄弟は本年中でも北海道長老定員会は独立したいと意気込んでおられたが、一大牧農地である北海道は誠に長老定員会の福祉活動に最好適地ではないでしょう。無事大会を終え、早朝私を駅迄見送って下さった誠二兄弟がどうぞこれを見て下さいと出された新聞、見れば、たくましい若人開拓者が果しなきこの沃土にトラクターを走らせている。これぞこの地にシオンの種を播く誠二兄弟の姿そのものではなからうか。カウリー使徒は、本部の献堂式で日本のそこ、ここに神殿が建つと祈られたが、北の守りとして将来北海道にも神殿が建てられるのではなからうか、本大会で系図の仕事を通じて結ばれた、素晴らしい縁組、本間兄弟と清水姉妹の婚約が発表された時、私はセント・ジョージの神殿が献堂されて間もなく永遠の結婚をされたピーターソン兄弟夫妻が遂二・三年前に、結婚八十周年のお祝をしたことと思ひ合わせて誠におめでたく、北海道地方部長の為、心から喜びお祝



い申し上げた次第でありました。

誠二兄弟は日本人のモルモン指導者としてこの新天地に働かれると言われる。お父さんは何十年と漁夫の生活をされ、誠二兄弟も一利兄弟も幼い時から魚釣りして海で暮らされたようですが、今は教会の仕事が忙しくて、海に行くひまはないそうです。正に「なんじ

今よりのち人を漁らん」と主に言われて網を置いて従ったゼベダイの子ヤコブとヨハネではなかるうか？ 二日に亘る本大会の会場であつた小樽市会議事堂の舞台の幕には古代の象形文字が美しく画かれている。それは誠二兄弟が案内してくれた小樽海岸の岩壁に刻まれた古代文字を写したものでこの岩壁は史蹟として保存されているが、学者は次のように訳している。

「我は部下を率い大海を渡り闘い、此の洞窟に入る」

イスラエルの散乱で東方に敢つたルベン・カド・マナセの何れかが、この北海道にも辿り着いたのではなかるうか？

北の国々に在る者たちは、主の前に主を憶えて出て来る。またその予言者たちも、主の声を聞きてもはや自ら抑うる能わず、彼ら巖を打ちて水その前に流れ下らん。一つの大路は大いなる淵の唯中に現われて出で、彼らの敵はかえりて彼らの餌とならん。不毛の砂漠の中に生ける水の池、出で来り、焼けたる地は、もはや温いなき土地にあらざらん。而してこれらの地は、わが僕なるエフライムの子孫に豊かなる財宝を産み出さずべし。永遠の山々の境は彼らの前にゆれ動き、北の国々の者はひざまずきて、シオンに於いてエフライムの子孫なる主の僕らの手により栄の冠を受け、彼らは永遠の悦びの歌をもて満たされん。

北の守り、北海道地方部の将来に祝福あれ!!

その指導者たちの上に神の導きとお守りあれ!!

瀧沼兄弟御一家の心からなるお世話で無事二日間の北海道大会で
の重任を果した私は、かく祈りつつ車上の人となりました。

(渡部)



伝道本部だより

バプテスマ 一九六三年六月

久志敬子	畑谷正子	高島千鶴子	富沢千鶴子	高橋昭恵	群馬敏子	山下敏子	木室佐和子	堀岡佐和子	福岡純子	石井純子	旭川順子	田中順子	広司嘉子	松井正子	小林和彦	岩崎恵美子	平山照久	福西静代	藤原節子	阿倍野			
松本	高橋稔彦	芝藤忠男	斎藤清機	音川八郎	岡本亮	金丸強	長谷川清子	京都和子	山平和子	渡辺幹夫	土橋節子	白須玉江	白須純江	三井静代	佐藤末代	甲府美智子	奥川美智子	浅井裕子	金沢清子	内海清子			
林美沙子	西の宮	渡辺嘉津世	外山義明	清水裕子	西山和利	西山岩男	中山周一	森隆暁	森ヨミツ	丸山恒雄	榎谷章治	馬場年弘	阿部宣夫	新潟	田島豊子	鈴木義美	岡安克己	名古屋	菅野和子	大橋興			
戸田道子	田中良一	高本圭子	高本圭子	高橋登美子	神徳隆治	住野節功	白矢節子	島上咲子	野上咲子	中川善雄	村山芳子	松村安雄	黒田泰蔵	小竹彰	岩下好孝	林義弘	浜田資	福谷ハエエ	荒木義雄	岡町清子	宮崎喜久男	宮崎喜久男	岩本和正
下木真弓	定松淳一	中川千代子	幕内百合香	柏原昌	門田三子	市村善之	原隆章	同前志津雄	土井勝次	安藤輝幸	三の宮	坂野末子	池田律子	小樽みや子	谷本みや子	陶山俊治	桑原欣子	小原勝二郎	阿部栄子	岡山	山和子	山本浅美	壺井哲夫
東京南	吉田次郎	高橋やい子	関口征子	東京北	根岸テル子	近藤時江	石原智代	秋元光子	東京東	藤本豊三	浅野瑠璃子	東京中央	高橋昭雄	鈴木智幸	仙石勝子	川村久安	相沢幸信	仙台孝子	西里孝子	前田正一	札幌	浦川勝	高田孝子
上原美恵子	当間栄基	仲村美恵子	久高安枝	那覇	田中治子	村松輝久	横浜史郎	佐々木黎子	東岡和子	近末不二馬	柳井志保子	結城千恵子	本越静枝	管橋和子	山形幸子	寺田幸雄	田中忠子	高木和子	本間本也	宇野勝也	東京西	中野祥子	小鷹ナツ江

神 権

阿倍野

ヒネノヤ ユウタロ(執)

市道 喜八郎(祭)

ツノヤマ テルオ(執)

群馬

小林 エイチ(執)

マシモ ヒロシ(執)

サワグチ タモツ(執)

広島

コガ ヒサヨシ(教)

オキ ノボル(教)

コノモト タダオ(祭)

ニイイ ヒデハル(祭)

シバタ テツジ(執)

スギヤマ カツヒコ(執)

金沢

イシシロ マサノブ(教)

松本

イト イサオ(執)

コサカ ナガオ(執)

クマガイ シゲオ(執)

名古屋

アオキ ケイゾウ(執)
キザワ オサム(執)
マツモト シンイチ(執)
サツサ シロウ(執)
タカツカ トミオ(執)

新潟

ワタナベ タダオ(教)

アトベ マサオ(執)

西の宮

フクヤ キョウジ(教)

ニシダ マサオ(執)

サクライ カツヒコ(教)

ツボウチ オサム(祭)

ヤスイ ゴロウ(執)

キタガワ マサキチ(長)

岡町

コイケ ヒロミチ(執)

コンドウ ヒロスケ(教)

トネ マサイチ(祭)

ヨシダ シロウ(祭)

ナカモト ミツル(長)

スギムラ コウイチ(長)

小樽

ゴト ショウイチ(執)

ヒグチ ヒロシ(執)
イケハタ イサオ(執)
カワサキ クニオ(執)
ニシムラ マサヒロ(執)
オクヤマ キョウジ(教)

サカイ マサヒロ(教)

ヨコヤマ タダシロウ(教)

ハタナカ ハルオ(祭)

クシオカ シンイチ(祭)

マスダ テルトシ(祭)

三の宮

アズマ マサオ(執)

ミズノ ケンイチ(執)

ツボイ ショウゾウ(執)

ナガイ ヨシノリ(執)

ミヤウチ タカユキ(教)

タカツ ケンイチ(教)

仙台

フジイ シゲオ(祭)

東京中央

オオハラ ミツナガ(教)

タカイ ジュンイチ(教)

タカナワ ケンイチ(教)

タカヤマ ショウジ(教)

トガワ ケンイチ(教)
ツボタ アキオ(教)
ナカジマ タケシ(教)
タカハシ マサシ(教)
カワハラ ヨシヒロ(執)

RHEE Myunhaeng(執)

サワダ カツロ(執)

東京東

ヨネムラ タケトシ(祭)

キグチ シゲオ(執)

ノガミ シゲル(執)

東京南

ナガセ ヨシアキ(執)

ナカムラ マサオ(執)

アサノ トキオ(教)

コフクダ フミオ(教)

オダカ ゲンタロウ(教)

ヨシカワ トシオ(教)

東京西

ヒラスエ ヨシクニ(祭)

工藤 駿一(祭)

大橋 正弘(祭)

イシイ タカシ(執)

テイ マサヒロ(執)

ヤマダ トシアキ(教)
山形
アライ カズヒデ(祭)
シバタ ツカサ(執)
タカハシ シンジ(執)

柳井

ニイヤマ ヤスオ(長)

タグチ ミツヤス(教)

横浜

イトウ テツジ(執)

カネコ マサトシ(執)

カワイ ヨシハル(執)

コブチ アキラ(執)

ササキ ヒロシ(執)

普天間

コハゲラ スナオ(教)

キンジョウ ジンセイ(教)

那覇

トウマ クニオ(執)

タカヨシ ヒロシ(祭)

ヨシムラ タダシ(教)

ブランチ・ティーチング・レックスン

訪問教師のメッセージ

(千九百六十三年七月の第一週に)

教会内の一致(統一)

末日聖徒は皆、教会内の団結に就いて理解すべきである。イエスは裏切られる前の大きな祈りの内で一致に比較される程、熱烈に祈った祈りはなかった。

今より我は世に居らず、彼らは世に居り、我は汝にゆく。聖なる父よ、我に賜ひたる汝の御名の中に彼らを守りたまへ。これ我らのごとく、彼らの一つとならん為なり。

我かれらの為のみならず、その言によりて我を信する者のためにも願ふ。これ皆一つとならん為なり。父よ、なんじ我に在し我なんじに居るごとく、彼らも我らに居らん為なり、是なんじの我を遣し給ひしことを世の信ぜん為なり。我は汝の我に賜ひし栄光を彼らに与へたり、是われらの一つなる如く、彼らも一つとならん為なり。(ヨハネ伝一七・一一、二〇—二二)

教会内の一致の目的は、同じ祈りの中で、

主によつて、はつきりとされている。即ち主が建てた教会は地上に於ける神の王国であつた事を、世の知らん為なり。若しも教会の會員の仲が強い愛と協力を示すなら世の人も無視することの出来ない模範となるのである。この一つとは何であらうか？ それは如何にして達成されるのであらうか？ イエスが心に思っていた一致は、彼の教会のすべての會員はその志が一定しており同じ目標に向かつて働くことであつた。福音の律法と儀式に従うことは一致団結の鍵である。それは各會員が、教会を守り、その原則にのっとり、その目的を促進し、その標準を保ち、その機能の活動に参加し、その指導者を支持することにある。

一致団結の第一歩は家庭にある筈である。若しも家の中に紛争又は不和があるなら、それは誰かが神の誠命を守っていないのである。平和と愛と調和のない天上の家庭を貴方は想像することが出来ますか。若しも一つの支部が党派に分かれていたら何か欠陥がある

のである。若しも定員会又はクラスの會員が教義に就いて意見を異にしているなら誰かが真理のみたまは、意見の相違をうながすものでないことを覚るべきである。一致協力の精神の下に私たちは、什分の一を払い、教会はそれによつて神殿や教会堂や学校を建てることと出来るのである。一致協力の精神の下に私たちは断食の律法を守り、断食献金をして私たちの仲間へ貧しい忠実な會員を援け合う一致協力の精神の下に私たちは息子たちや娘たちを伝道地に送り、世界に向かつて真理を述べ伝えさせる。同じ精神を以つて私たちは死者の為に系図を探求し、彼らの為に神殿の仕事をしてシオン山の救い手たちとなる。

一致協力の精神の下に私たちは忠実に神権会、聖餐式その他出るべき会に出席する。一致協力の精神と純粹の忠実さを以つて私たちは教会幹部を支持する。使徒パウロは、我々は信仰に一致する迄、は完成されないと云つた。